千葉日報

2016年（平成28年）6月7日（火曜日）

歯と口の健康週間 6月4日～10日

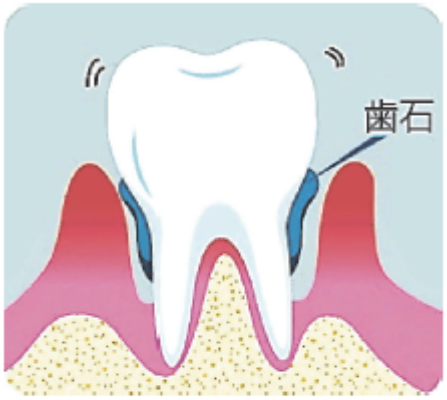
■4□

歯を失う原因 歯周病

日本人の50歳以上のおよそ8割がかかっているという歯周病は、歯と歯ぐきの隙間にすみついたばい菌（細菌・プラーク・歯垢）が起こしている病気です。お口の中にはおよそ300～500種類のばい菌が存在しますが、そのうちいくつかのばい菌が歯周病の原因として分かってきています。

この歯周病菌が歯ぐきに炎症を起こして歯を支えている骨を溶かすのです。つまり直接歯に穴をあけたりするう蝕（むし歯）とは違い、歯の周りの歯を支えている組織を破壊する病気なのです。

その特徴は、進行が非常にゆっくりでほとんど痛みを伴わないことが挙げられます。痛みがないとなかなか気づくことができませんので、かなり進行した状態になり歯がぐらぐら動くようになって皆さん気づかれることが多いようです。そうしたことから歯周病が進行すると歯を失うということに直接つながる怖い病気です。



進行する前に、できるだけ初期の時点で治療すれば歯を失うことはありません。こうしたことから、歯科医は定期的な歯科医院の検診を勧めているわけです。また、お口のばい菌が炎症を起こした歯ぐきから体の血管に入り込み体中に流れ全身にさまざまな影響を起こすことが近年分かってきました。歯周病が全身に病気を引き起こす可能性があるのです。

明日は、歯周病と体に引き起こされる病気との関連についてお伝えします。

（千葉県歯科医師会）